

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391500176		
法人名	介護サービスさくら		
事業所名	グループホーム悠々 北		
所在地	愛知県名古屋市長区高針荒田1011番地		
自己評価作成日	平成27年11月3日	評価結果市町村受理日	平成28年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&Jigvosyo_Cd=2391500176-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市長区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成27年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居して頂いたら最期まで責任を持ってお世話させて頂く。と言う理事長の考えに従い、看取りを行っています。提携病院との連携を密にし、看護師は非常勤ではあるが、2名体制で医療面での充実を図っているため、インシュリン・経管栄養・車椅子の方等、幅広く受け入れが可能です。行事やレクリエーションにも力を入れており、職員は様々な企画を常に考え、努力しています。建物が複合施設になっているため、1階、2階、3階合同での行事は、近所の保育園児を迎え、一緒に楽しみ、利用者様、職員共々癒されています。また、認知症の方に効果があると言われていた音楽療法にも力を入れており、カラオケ、リトミック等歌う機会も増やしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、小規模多機能と高齢者住宅を併設して開設されており、夜勤職員が複数勤務している体制でもある。そのため利用者の急変時等、職員間で連携して対応することが可能であり、利用者、家族にとっては安心できる体制が整えられている。理念については、法人代表者が長年の支援活動の基本としている「助け合う、学び合う、育ち合う」をホームも基本理念としており、利用者職員が支え合いながら生活することができるように、様々なレクリエーション等が行われている。食事については、通常は厨房から提供されているが、毎月、ユニット毎で調理を行う日を設けており、メニューを考えながら利用者も参加できるような取り組みも行われている。また、ホームでは、看取りを見据えた支援にも取り組んでおり、協力医とも連携を深めながら、開設以来、複数の方の看取り支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念である「助け合う」「学び合う」(育ち合う)のモットーを基に管理者と職員が様々な問題に対し、同じ意識を持ち、対処している。	法人の基本理念をホームの基本理念としており、日常的に職員間で振り返るような取り組みも行われている。また、毎月、ユニット毎に具体的な行動目標を掲げており、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	周辺の散歩や近辺への買い物に出掛け、近所の方と会話をしたりしている。全館合同の行事では、近所の保育園や先生方と交流している。	地域の方との交流については、事業所全体で取り組んでおり、地域の方が日常的に訪問する機会が得られている。また、保育園との交流や中学生の受け入れも行われており、地域貢献にも取り組んでいる。	ホーム近隣が新興住宅地であるため、地域の活動が今後のテーマでもある。新しい地域であるため、ホームを含む事業所の前向きな関わりが実現することを期待したい。
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所が認知症のノウハウを持ち、入居者様のご家族や地域の方々の相談などに耳を傾け、アドバイスなどしたりして地域の方々から頼られる存在になるべく、情報の発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にはなるべく全家族様に順番に参加して頂く様お願いし、入居者やサービスの状況を報告や話し合いを行っている。家族様から貴重な意見をたくさんいただいている。	会議に法人代表者が出席した際には、事業所としての方針、思い等も伝えられており、出席者にホームへの理解を深めてもらうように取り組んでいる。また、今年度より保育園の方の出席も得られ、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日々、サービスを提供するにあたって、介護保険法やその他の疑問に思う事は、積極的に市に電話連絡を行い、相談して解決するように努めている。	市関係部署とは、法人全体で協力関係を築いており、市の事業への協力や会議や研修会等への参加も行われえいる。また、地域包括支援センターが行っている見学会にホームも協力しており、食事を提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関施錠に関しては入居前に説明し、それを了承して頂いた上で入所を決定してもらっている。安全の為、ベッド柵は半分使用しているが、身体拘束は行われていない。	ホームのエレベータ前の扉は施錠されているが、利用者が外に出たことがあるため、職員間の連携と利用者の様子を見ながら1階に降りる取り組みが行われている。また、研修会の機会をつくっており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学び、また、管理者と職員一人ずつで不定期であるが、個人面談を行い把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	毎月のミーティングの中で、月例報告を行っており、その一つに権利擁護についての議題も設定されており、職員の内部研修としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書や需要事項説明書についてはお互いに書面を見ながら音読にて内容を説明する。疑問があればお答えするようにしており、十分納得されたうえで契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族やご本人より直接要望があった場合、改善できるよう努めている。また、計画作成担当者が常に家族様に意見・要望を伺っている。	ホームでは、今年度初めて家族会を開催しており、家族との意見交換を行っている。意見や要望等は、法人本部が併設されていることで、法人で受け止める仕組みがある。また、毎月のホーム便りには、担当職員による手紙も添えられている。	初めて開催した家族会の際には、家族から様々な意見、思いが寄せられている。家族間の情報交換の機会でもあり、今後も継続できるような働きかけに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者の事業所の運営方針の説明の場があり、職員とコミュニケーションをとり、意見・提案を吸い上げ、ミーティングなど話し合う機会を多く設けている。	ユニット合同の会議が行われ、さらにユニット毎で会議が行われており、職員間での意見交換等が行われている。職員からの意見等は、管理者を通じて法人本部に伝えられている。また、今年度、管理者による個別面談が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員に対して無理のない勤務体制を整えたり、個人面談等で職員個々の努力や実績を把握し、向上心が持てるようなより良い職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員税員が、スキルアップに心掛けており、常勤、非常勤共に、内外の研修に参加してもらえよう情報は積極的に公開している。研修内容を職場に報告する機会を与えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他事業所の管理者や介護支援専門員などとの交流は理事長を介して行っており、事業所間の情報交換などは行っている。月1回の代表者会議、ケアマネの勉強会も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人の想いや不安を受け止め、おかれている状況を把握し、要望等を聞きながら、安心して頂けるよう声掛けするように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	検討されている段階や見学に来ていただいた時に、不安なことについてしっかり耳を傾け、ご家族に安心して頂けるようなサービスを行っていき、信頼関係を築いていけるように努めていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービスを導入する段階では、管理者・計画作成者・看護師を中心に、まず何が必要か、どのような支援が可能か検討しご家族と相談して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は介護するだけでなく、共同生活者の一員として暮らしの中に入り、尊敬と感謝をもって、一緒に過ごせるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	月に1度近況報告のお手紙を出していると共に、お電話での報告、また来館された時には職員からの報告や掲示してある写真を話題に関係を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の大切にしてきた、人間関係を把握し、日常生活の中で思い出して頂ける様に努めている。また、ご家族・親戚・友人等自由に出入りして頂いている。	利用者の入居前からの友人によるホームへの訪問が得られており、関係継続につながっている。家族と毎月食事に出かけている方がいる他、墓参りや法事等で外出している方もいる。また、利用者の中には自宅で過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	行事・外出を通してご利用者様同士の関係が高まっていくように、気持ちの引き上げに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所された方や亡くなられた方のご家族等に、その後お手紙を頂いたり、電話連絡したりなど、可能な範囲でフォローは行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話を通して、無理強いせず、ご本人の意思に沿えるようにしている。日々の行動や表情などからも把握できるよう努めている。	ホーム独自の取り組みとして、利用者に関する申し送りを介護面と医療面でページを分けることで、細かな把握につなげている。ユニット会議を通じたカンファレンスの機会が設けられており、利用者の意向等に関する話し合いが行われている。	職員の気付き等について、計画作成担当者に内容が報告され、その内容をとりまとめながらアセスメントに活かされていくことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族のお話をもとに、ライフスタイル・生活環境を把握し、これまでの馴染みの暮らしに近づけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活を通し、申し送り・介護記録・生活記録にて現状を把握し、心身の変化等を早期に発見するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	問題が発生した時は、カンファレンスを行い、家族様とも話し合い、介護計画を見直すことで対応している。	現状、介護計画の見直しは1年となっている。決まった様式でのモニタリングは行われていないが、毎月の家族に宛てた手紙には、利用者の健康面、活動面に分けて記載されていることで、毎月の状態の確認にもつながっている。	介護計画の見直しをより短期間に行えるように、毎月の家族に宛てた手紙の内容を活かしながら、家族との面談の機会をつくることや定期的なモニタリングの実施に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の気づきは介護記録に記載し、また、職員が一目見て分かるように特記事項は青字、夜間帯は赤字のように色分けし記録をし、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日々変化する利用者様のニーズに合わせて柔軟に支援やサービスを提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	多目的室を利用して、地域の方が参加して頂ける様な行事を持つことができています。近くの保育園児との交流は恒例行事となっており、その都度、微笑ましい光景が見られる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	当施設では、提携病院があり、月2回往診の医師がみえる。入居前のかかりつけ医師が良い方は、他の病院に受診している。また、何かあった時には、提携病院の医療が受けられる。	協力医療機関とは、関連の事業所と合わせて柔軟な対応が行われており、合わせて2名の協力医による訪問診療が行われている。また、ホームには看護師が勤務しており、日常的な利用者の健康チェックが行われ、協力医への情報提供も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	2人の非常勤の看護師と職員と情報のやりとりをしている。主治医・ご家族との連絡は看護師が密に行い、施設内での適切な受診や看護が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には必ず情報交換を行い、ケアマネも病院に足を運び、状況を把握したり、病院のケースワーカーとも密に連絡を取り、出来るだけ早期に退院して頂ける様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	実際に終末期の介護は行っており、主治医よりその時の指示を頂いた際には、主治医・ご家族・職員の話し合いを持ち、施設としての終末期の指針を書類で説明し、ご家族のケアも行うようにしている。	看取り支援については法人全体で取り組んでおり、当ホームでも複数の方の看取り支援が行われている。家族とも話し合いの機会をつくりながら、協力医とも連携して対応している。また、看護師の勤務もあることで、職員へのフォローも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時のマニュアルを作成し、すべての時間帯での対応の仕方等を見える場所に貼り付けてある。看護師の指導により実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	本年度はまだ実施されていないが、年2回避難訓練を行うようにしている。災害に対する勉強会や話し合いにより職員に身につけつつある。地域との協力体制も少しずつ築いている。	今年度の訓練を実施していないこともあるため、今年度中の実施を予定している。訓練の際には消防署の協力も得られている他、地域の方との協力関係についても構築に取り組んでいる。また、建物の屋上に備蓄品の確保が行われている。	併設の事業所とも合わせて重度の方が生活している現状もあるため、定期的な訓練の実施に期待したい。また、地域の方ともホームで出来ることを検討しながら、協力関係が深まることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年長者として、敬意を払い、馴れ合いの中でも敬語を使い、ご本人の尊厳を保つべく声掛けをするように心掛けている。	職員の利用者に対する言葉遣い等の対応については、研修等の実施は行われていないが、日頃の業務を通じて注意を促すこともあり、職員の振り返りと意識向上につながるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	可能な範囲で「自己選択・自己決定」が行われるように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日その日で個々のペースを把握し、それに沿った過ごし方が出来るように努めている。拒否が多い方には、職員が様々な声掛けでうながすように工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節によって、ご家族に服を用意して頂き、ご本人と会話をしながらその時の表情等見ながら、主に職員が選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	手伝っていただける方には、配膳作業をお願いしている。月に1回の食事作りとおやつ作りを職員と一緒に、お茶碗洗いなど手伝っていただいている。	食事については、併設事業所の厨房から提供されているが、月1回、ホーム内で調理を行う日を設けており、利用者も片付け等に参加している。重度の方が生活していることもあり、職員によりミキサー食等の提供が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスは管理栄養士のレシピをもとに調理を行っている。糖尿病や心臓病の食事に関しては他の方とは分けて調理している。水分量や食事量は看護師がしっかりチェックし、指示・記録をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行い、また、一人で困難な方には、職員が仕上げ等の介助に入っている。訪問歯科医の指示で個々に合わせた口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行うようにしている。失敗が多くなった時は、その方に合った対応を職員で話し合い、トイレでの排泄に努めている。	利用者全員の排泄記録を残しており、職員間で情報を共有するよう取り組んでいる。看護職員も排泄状態を確認しており、医療面での連携にも取り組んでおり、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェック表で毎日確認し、便秘の方には水分を多めに摂って頂いており、腹部マッサージを行っている。また、医師との連携で薬の処方等で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴時間はおおよそ決まっているが、その日の体調に合わせて、入って頂くようにしている。入浴拒否がある方は時間をかけて個別に対応している。	入浴は週2回であるが、一人ひとりお湯を入れ替えていることで、利用者に気持ち良く入ってもらおうようにしている。重度の方については、職員複数で対応している。また、屋上に足浴ができる設備が整えられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人の生活リズムを把握し、昼間は散歩やレク等を通してなるべく起きて過ごして頂ける様にしている。夜は各々のペースで入床され、殆どの方が夜間良眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師が薬の服薬管理をしており、服薬に関して職員に細かく指示があるため、服薬の支援と症状の変化の確認は出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の暮らしに楽しみが得られるように、お話ししたり、歌を歌ったりして笑顔を引き出せるように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	その日の体調に合わせ、近所の公園に散歩等に出かけている。ご家族と一緒に行けないような場所には、遠足として行事の中で行い、ご家族にも参加して頂いている。	ホーム周辺を散歩したりしている他、定期的に訪問販売が行われていることで、利用者が2階のホームから1階に降りる機会をつくっている。また、定期的な外出行事を行っており、季節の花見や初詣、市外の施設への外出等が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居様がお金を管理する事は困難だが、外出先で購入・支払があれば出来るかにはご自分で支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族に電話をしたい等の要望があれば、職員が家族に電話をして、本人に取り次ぐ支援を行っている。郵便物などが届いた場合は、ご家族の了承を得て本人へ渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	専門家の意見を取り入れ整備されている。清潔を基本として、入居様の不安を招くような物は置かないように努めている。また、季節物を利用者様と一緒に制作し、壁に貼っている。	ホーム内は、ゆったりとした空間を確保している他にも、利用者が落ち着いて過ごすことができるような色彩の壁紙を使用している。また、壁にはホームの行事や日常の様子を写真で掲示されており、利用者の様子を伝えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間では、利用者様同士の関係性を配慮して、ソファーに座って頂いたり、テーブルに座って頂いたりして和やかに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人がご自分の部屋であることを意識してもらえるように、使い慣れた物、好きなものは持参して置いて頂くなど、安心して過ごせる空間になるように工夫している。	居室には、ベッドが備え付けになっているが、家具類や収納ケース等については持ち込みとなっており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。利用者により、家族の写真を飾ったり、使い慣れた道具を持ち込んでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	お一人おひとりの状況を把握して、日常生活の中で出来る事が継続していけるような生活環境を作っている。		